

第8回 総合計画審議会 会議録

召集年月日	平成28年2月25日(木)			
召集の場所	白馬村保健福祉ふれあいセンター2階 学習室			
開閉会の日時	開会	午後2時00分		
	閉会	午後3時50分		
出席者数	19名出席			
出席者	区分	役職名	氏名	出席
	教育委員会委員	白馬村教育委員会委員(会長)	伊藤 公一	○
	公共的団体の役職員	白馬村体育協会会長(副会長)	山岸 忠	○
	教育委員会委員	白馬村教育委員会委員	塩島 弘之	
	農業委員会委員	白馬村農業委員会会長	松沢 正猛	
	公共的団体の役職員	白馬村民生児童委員	矢口 緑	
	公共的団体の役職員	白馬商工会長	杉山 茂実	○
	公共的団体の役職員	区長会会長	山岸 弘明	○
	公共的団体の役職員	白馬村消防団団長	横山 義彦	○
	学識経験者	まちづくり白馬友の会会長	松澤 恵也	○
	学識経験者	神城婦人会会長	田中 みつる	○
	学識経験者	北城婦人会会長	眞島 宣子	○
	学識経験者	白馬村スキークラブ会長	太谷 陽一	
	学識経験者	白馬村シニアクラブ会長	吉澤 豪俊	
	学識経験者	大北農協白馬支所長	内川 武文	○
	学識経験者	白馬村索道事業者協議会会長	駒谷 嘉宏	
	学識経験者	白馬村観光局長	北村 興二	
	学識経験者	白馬村ボランティア連絡協議会会長	太田 洋子	○
	学識経験者	特別養護老人ホーム白嶺所長	南沢 裕子	
	学識経験者	白馬村金融団幹事長野銀行白馬支店長	宮島 賢次	○
学識経験者	白馬村建設業組合長	塩島 正		
学識経験者	観光地経営計画委員	ケビン モラード		
一般公募	公募委員	宮脇 哲也	○	

	一般公募	公募委員	藤田 直子	○
	一般公募	公募委員	富山 正明	○
	一般公募	公募委員	高田 愛史	
		株式会社 studio-L	醍醐 孝典	○
		株式会社 studio-L	小山 弘二	○
	事務局	白馬村役場総務課 課長	吉田 久夫	○
	事務局	白馬村役場総務課 課長補佐	松澤 孝行	○
	事務局	白馬村役場総務課 企画係長	太田 俊社	○

## 1. 開 会

**【山岸忠副会長】**

開会を宣言した。

## 2. あいさつ

**【伊藤会長】**

こんにちは。先週に引き続きということで、大変ご苦労さまでございます。前回の審議会でいろいろご意見をいただきました。そのあと個別に審議委員の皆さんからも意見をいただいたものを加味して、今回の修正案ということでまた出てまいりましたので、それを元に審議をしていただきたいと思います。

日程としましては、今回と次回が3月15日(火)と予定されておりますけれども、これが最終ということですので。これで正式決定、そのまま方針ということになりますので、実質的には今日が詰めた審議が出来るのは最後ではないかと思っておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、この会場が次に4時から違う会議が入っているとのことで、スムーズに進めていきたいと思っておりますので、このまま審議に入っていきます。よろしく願いいたします。

## 3. 協議事項 (伊藤会長が進行を務める)

### (1) 白馬村第5次総合計画基本構想の素案(修正案)について

**【伊藤会長】**

事務局に説明を求めた。

**【事務局 総務課企画係長 太田】**

それでは、お渡しした資料に基づいてご説明をいたします。

以降、事務局から資料1 白馬村総合計画(原案 第2版)等について説明があった。補足といたしまして、studio-Lより若干説明をさせていただきます。

## 【(株) studio-L 小山】

それでは私の方から、資料3 白馬村第5次総合計画インタビューについて、という資料についてご説明したいと思います。

前回の審議会で、こういったインタビューの結果だったのか、また今事務局からご説明のあった基本構想にあたる部分とどういう風に関連しているのか、考え方のプロセス的なところが見えにくいのご指摘がありましたので、インタビューとキャンプの経過をまとめてきておりますので、その辺をふまえてご説明していきたいと思います。

インタビューについては、1月20日の審議会でも若干、中間報告ということでさせていただいたのですが、多分に重複する部分もあるかとは思いますがご容赦ください。

まず、インタビューについてご説明します。目的と概要というところは、前回もお話させていただいたところではあるのですが、ワークショップ前に村民の方がこういったことをお考えになっているのか、ということや、それぞれの業界・住まわれている方が様々いらっしゃるの傾向をつかむ、ということとさせていただきました。

概要と日時等は(資料を)見ていただいて、質問項目としては大きく6つについてお聞きしております。(資料では)インタビューの内容を質問項目ごとに分けているのですが、簡単に要約ということでまとめています。

ここがワークショップで出てきた5つのテーマの元にもなっているのですが、ご説明すると、1つめとして『農業』の観点で「気候も良いので、自然と美味しいものが出来上がる。」という話もあったのですが、耕作放棄地の問題ですとか、新しい農産物を作るというところの意識、後継者の問題、というところでご意見が多かったので、『農業』にご関心があるのかと思いました。

2つめとしては、『観光』というところですが、「豊かな景観を活かした観光というのを、今後どうしていくのか。」ということについて、皆さんいろいろご意見があったのでその点についてまとめてあります。そこでも出てきたのが「後継者の問題」と「グリーンシーズンの仕事場」というところが難しい、というのがありました。

3つめは『子どもの教育環境』ということで、地域の皆さんが一緒になって地域文化等を共有していく、という話がありました。特に白馬高校が全国募集というところで、皆さんからも話があったのかと思いました。

もう一方で、移住してきた方々が増えてきていて、そういった方々に対するサポートが必要なのではないか、という話もありました。

4つめが『福祉・医療』についてです。こちらについては、観光業がメインではあるのですが、これから高齢化が進む中で、人材の確保やボランティア活動といった支援が今後必要になるのではないか、というところと、医療機関へのアクセスを気にされている方が多かったです。

一方で、障がい者の方ということも、村内でもっと活動する場や雇用を確保していく必要があるのでは、というご意見もありました。

最後に『コミュニティ・防災』についてですが、こちらは直近で震災があったということで、より明確にお話される方が多かったです。地域コミュニティの絆・繋がりというものを、もっと暮らしの中で、形は変わっていくかもしれないけれど、何とか繋げていけないか、といった話ですとか、外国人の方が増えてきている状況もあるので、そういった方々とのルール作りといったところも今後必要では

ないか、といった話が出てきました。

インタビューで出てきた内容をふまえて、特に質問項目の中で言うと『魅力と課題』の部分ですが、『農業』『観光』『教育・子育て』『福祉・医療』『コミュニティ・防災』というテーマが見えてきたということと、この時点で【多様性と学び】といったところがお話の中であったので、我々の方でもこれを意識しながら2月9日から11日までの集中キャンプでお話させていただいたということになります。

こういったインタビューの結果というのは、当然先ほど事務局の方からご説明いただいた目標や基本構想の部分に加味されていますし、次年度以降特にどういうことをやっていきたいのか、に関わってくるのですが、基本計画の部分に活用する情報となりますので、そういったところで今後使っていきたいと思っております。

次に、インタビューの期間中に村長にもお話を聞かせていただく時間をとっていただいて、簡単に箇条書きにしているものになります。前回ご説明していなかった部分ですので、今回ご紹介したいと思っております。方向性と思っているところの部分をお話しいただいたものになります。

1点目としては、前回の審議会でも出ていたのですが、【村ごとと自然公園】という理念は何とか継続していきたいと思っているので、そういったところを表現してほしい、というお話がありました。

2つ目は、先ほどのお話にもあったように、各集落の歴史・文化というのは、ありがたいことに昔と変わらない状態で残っている、と。なので、これを貴重なものとして今後も続けていきたい、ということをおっしゃっていました。

3点目としては、【観光立村】ということ掲げているのですが、村全体が一つになって、というところが弱いのかな、とお話されていまして、みんなが一つになってお客様におもてなしが出来るというようにしていきたい、とお話されていまして。

その次が、基本構想の一番最後の部分に掛かってくるのですが、『住んで良かった・生まれて良かった・来て良かった』という結果に当たる部分かもしれないけれど、そういうような村にしていきたい、ということ。

その次が、外国人の移住者の子どもさんたちが今、小学校・中学校に増えているということですので、『白馬の子』ということで一緒に地域全体で育てていけるようにしていきたい、というお話。

その次が、山岳リゾートとしての施設・制度・サービスの向上を村としても支援していきたい、というお話。

その次が、農業の部分で、多面的機能というところをもう一度思い出して、新しい特産品もあるけれども、村にある豊かな景観や文化というものも引き継いでいきたい、というお話。

(次に、)これは教育の部分ですが、図書館の施設の拡充。これまでも、皆さんからのお話しいただいているということで取り組んでいきたい、という話をしておりました。

その次が、農業の部分で、“地の物”を販売というところで、地域の人たちと交流をしながら、これは確定ではないのかもしれないのですが、交流や販売が出来るような場を作りたい、という話もされていまして。

最後は、【多様性】と【文化】・【学ぶ】といったところに関わってくるのですが、地域性から移住してくる方が増えてきているので、それぞれの皆さんの知識や経験を巧く活かしていないところもあるので、いかに活性化に繋げるように推進する仕組みを作っていきたい、という話をされていまして。

それを加味して、先ほど事務局から話があったように、基本構想・目標等を整理させていただいたと

いうことになります。

最後、アイデアキャンプについてですけれども、こちらもインタビューと同じような構成でまとめさせていただいております。

概要と要約と、アイデアキャンプ中に出していただいたそれぞれのご意見という形で、ご説明していきたいと思います。

まず、目的・概要にあたる部分としては、インタビューの結果というところをふまえて、実際どうなのかというところを意見交換する場を設けさせていただいて、集中的に整理をさせていただきました。

2月9日から11日に行いまして、日中帯はカフェということで、ふれあいセンター1階にスペースを作らせていただいて意見を出していただいた。

夜は学習室や1階フロアにて何名かの方に集まっていただいて意見交換をさせていただいた、ということになっております。テーマはインタビューのところで抽出した5つのテーマを選んでいただきました。

それぞれのテーマごとに、どういった意見が出ていたのかということをもとめさせていただいております。逆にインタビューと重複する部分もあるので、特にキャンプで出てきたところで、特徴的なところをということでもとめていきます。

まず、『農業』のところですが、赤いカード、白馬村がこんな風になったらいいな、という観点なのですが、こちらでも耕作放棄地というところが意識されているということと、田園風景は残していきたい、田んぼや野菜が生産できる・維持できるというところを意識されている方もいる。

特に、というところで、気候によって難しい部分もあるけれど“生産物のブランド化”というところが観光と連携できれば良いのでは、という話もありました。

その反対の青いカード、気になっていること・困っていること、という観点で書いていただいたのですが、そうは言っても農業による収入が厳しいというお話ですとか、それによって後継者問題や耕作放棄地が増えているといったお話も出てきました。

新ブランドですとか新しい生産物というところで、気候というところもあるのですが特産品がそれによって少ないのではないかと、ということも出ていました。

続いて『観光』のところですが、赤いカード（こんな風になったら良い）では、国際的なリゾート地になるために、近隣のスキー施設・グリーンシーズンのプログラム・屋内施設・地元食材・歴史と文化、といった資源が有効に連携していないのではないかと、というお話が出ていました。

もっともっとサービスの向上というところを意識されている方が多かったと思いました。

逆に、気になっていること・困っていることで言うと、施設の老朽化ですとか、イベントはいろいろ行われているけれども実際に伝わっていない・共有できていない、という話でしたり、雇用先の不足があるのでは、という話が出ていました。

一方で、というところで、インバウンドの方のサービスは非常にあるのだけれども、村民が利用出来るようなプログラムや施設があっても良いのでは、という意見があがっていました。

続いて『教育・子育て』についてです。赤いカード（こんな風になったら良い）については、せっかく豊かな自然環境や多種多様な方々が住んでいるので、大人から子どもまで一緒に交流して学び合っていく場・制度・仕組みがあったら良いのではないかと。今は海外からの定住者が増えているので、交流をして外国語の習得や、逆に日本人の方からは白馬の歴史・文化を伝えたり学ぶといったところを増

やしていったら良いのでは、とのお話がありました。

青カード（気になっていること・困っていること）については、インタビューで出てきたものになりますけれども、未満児・病児保育の制度の更なる充実や、進学に関する選択肢がもっと増やせないだろうか、また村内で何か出来ないだろうか、というお話が出ていました。

あと、公園と図書館のハード施設の整備、というところがこちらでも出ていました。

『福祉・医療』についてですけれども、村内に福祉・医療施設がある程度拡充は出来ているけれども、地域ともっと交流をして村全体で支え合っていくような、さらに言うと、歳を取っても村で楽しく暮らしていきたいので、というようなことで、意見が多かったです。

例えば、ということで書かせていただいたものが、家庭菜園・森林・温泉などの資源があるので、それを活かして健康づくりや高齢者の外出促進等をしていっては、というお話がありました。

青カード（気になっていること・困っていること）については、（インタビューとキャンプに）共通して出てきた意見が多かったのですが、高齢者の移動手段と除雪というところが気になっている方が多かったです。

もう一方で書かせていただいたのが、キャンプで出てきた意見だったのですが、外国からの定住者の方が、10年後と考えると予測できない部分はあるけれども、一定程度はいるのではないかと、ということで、その方々に合わせた福祉・医療制度を出身国の調査をしつつ組み入れていく必要があるのではないかと、という話も出てきました。

最後、『コミュニティ・防災』の赤カード（こんな風になったら良い）については、これは【多様性】というところに関わってくるのですけれども、昔から住んでいる方々と国内で移住してきた方・外国から来た方と、様々な背景の方がいらっしゃるので、いかに繋がりを作るのかというところが、ご意見として多かったです。

直近ですと、地震の時の繋がりというところを維持して、防災としていかに備えていくか、というお話も出てきました。

青カード（気になっていること・困っていること）については、区に入らない・区費を払わない、ゴミの問題と、多様化している問題を気にされている方が非常に多かったです。

やはり、繋がり希薄だったり、情報共有・防災の意識というのが低いのではないかと、というお話もあったので、その辺りを改善できないだろうか、というお話もありました。

それをふまえてですけれども、個別インタビューで設定した『農業』『観光』『教育・子育て』『福祉・医療』『コミュニティ・防災』というテーマで意見交換をしていただいたのですけれども、その中で、軸というか、柱になるようなものが見えてきました。

『農業』『観光』については、全体的に“仕事”・“仕事創出”というところが中心になってくるのでは、と思ったので、この2つを『産業』というくくりにしたら良いのではないかと、というお話があります。

『教育・子育て』『コミュニティ・防災』については、いろいろな人がいる、というのと、それであっても暮らしを支えていく、という話が中心だったのではないかと、ということがあったので、“ひと”と“暮らし”という軸にしてみました。

それぞれの5つのテーマで共通しているのは、白馬の豊かな景観と、資源をどうにかしたい、というお話があったので、“自然”という軸にしています。

この4つの軸というのは、もともとは【多様性】と【学び】というところから発して、もしくはそういったところが((( 47分18秒~47分22秒あたり )))らしさではないかということにしていたので、それが本当にキャンプ中の意見交換でも、これで良いのだ、ということが再認識できたということがあります。

(資料15ページの) 下の方にイメージ図を描かせていただいているのは、左側がインタビューをした結果で、これで一旦キャンプを進めたのですが、その意見交換の結果、【多様性】と【学び】という軸は変わらないのですが、“産業”・“ひと”・“暮らし”・“自然”という形で【多様性】と【学び】を推進していくと良いのではないかと、ということで再設定させていただきました。

ここまですべて説明なのですが、先ほど事務局の方からご説明いただいた(資料14・15ページの)内容については、この簡単に図案化したものをふまえて文章化するとこういった内容になる、というものになります。

前回の審議会でも、7つの施策大綱で、というところがあったとは思いますが、一旦基本理念のキャッチフレーズを作るとなったときに、7つだとしっくりこない部分も出てきたので4つに再整理させていただいて、その中で7つの(施策大綱の)内容は盛り込むとこういう形になってくる、というのが現状かと思えます。補足説明としては以上になります。

### 【伊藤会長】

それでは、事務局の方から基本理念・基本目標について、studio-Lの方から補足説明があったわけですが、議論が飛ぶといけませんので2つに分けて、まずは基本理念の方から、前回をふまえてキャッチフレーズや中身について、かなり修正された部分ですので、加筆されたものですか、整理されたものが出てきていますので、これについてご意見のある方、お願いいたします。

前回の『村ごと自然公園』は残すということでしたけれども、文章の中に残す、という形で今回出て参りましたけれども、キャッチフレーズ等いかがでしょうか。

### 【 委員 】

まず、工夫の跡が見えるのと、コンパクトであるということで、内容はすごく良いのではないかと思います。

ただ、【多様性から学び合う村へ】という言葉・キャッチフレーズは、どういう意味なのだろう、解りにくい、という風に思うのですけれども。

### 【伊藤会長】

Studio-Lさん、キャッチフレーズについて思うところがあれば。

### 【(株) studio-L 醍醐】

確かに、【多様性「から」…】というのは日本語としてどうか、という議論はありました。意味としては【多様なことから学び合う】ということですので、ここの言葉尻というのがまさに今日ご確認いただければと思っていたポイントでしたので、皆さんからご意見いただきたいところです。

【多様性】というのは、第3シティであるとか、今のある種の大事な、国際的にも非常に大事な言葉

ですので、【多様性】という言葉をあえて使わせていただいているのですが、日本語としては【多様なことから】の方が意味としては通るかとは思いますが。

あとは、言葉のはまり具合というか、日本語としての響きが、一番大事な理念のキャッチーになりますので、ここはまさに議論いただきたいと思っておりました。

今回は【多様性から学び合う村へ】という形でご提案させていただいてはおりますが、日本語としては確かに【多様なこと、多様であることから学び合う】という方が、意味としては通りやすいのでは、とは思っております。

### 【 委員 】

ただ単に国語的な意味だけではなくて、“【多様性】から何を”とか、【多様性】の“何”から“何”を、という目的語とそれが、すごく、あまりにも広すぎるのでは、と思う。

### 【(株) studio-L 醍醐】

いろいろなとらえ方が出来るという風には思いますが、もう少し丁寧な表現をした方が良いのかもしれない。

### 【 委員 】

やはり、言葉の数が伸びること・増えることに抵抗があるというか、コンパクトに、というのか…。

### 【(株) studio-L 醍醐】

そうですね。出来る限りコンパクトに、と心がけたところが一方ではあります。そのせめぎ合いはあるかとは思いますが。

### 【伊藤会長】

今の件について、他の審議委員の皆さんはいかがでしょう。

### 【 委員 】

日本語としては考えるとおかしいし、最後に【… へ】と書いてあると、何から“… へ”に向かうのか、というところで、【学び合う村】に向かって何かをしていく、という意味なのだと思うけれども、“… へ”と言うと、帰結の最終的なものがあってそこに向かう、という感覚の言い方だと思う。

だから上は、そういう、何かを求めていきます、豊かさというものを求めていきます、という“過程”を理念にします、ということを書いていて、こっちは何かある“もの”に対して、そういう“もの”を目指していきます、と言っている。なので、表現が違うな、というのがあって。

それならば、ついですけれど、一番最初のキャッチフレーズ（白馬の豊かさとは何か）のところ、最後は“何か”と応えているキャッチフレーズになっている。これって、私が最初にパッと見た瞬間に一番違和感を覚えたのですけれど、村の基本理念で「何か？」と問いかけても良いのか、と。

これはあくまで、村の政策をするために、向かっていく一つの、5年後・10年後向かっていく基本的な姿勢なわけですね。

それを「何か？」とここで疑問符になってしまったら、「何をするの？」という話で、「何も分かっていないのに、何をするの？」ということになりませんか？

だからこの言い方からすると、何をしたいのかよく分からない、という感じのイメージを持ってしまおう。

もしこういうものを書くのだったら、【豊かさを求めて】というような言い方、【豊かさを感じられる村を目指して】とか、そういう、目標なのだから、その目標に向かった基本理念ですよ？

そうすると、この書き方をすると、その段階・段階でそういうことを考えて絶えずやっていますよ、ということなのだろうけど、絶えずそういうこと“だけ”を考えてやっている、ということの基本理念にするというのは、それはそれで言っていることは分かるけれど、やはり基本目標という、“目標”に対する理念とすると、“目標”は何かあるわけです。“目標”というのは何か一つの“理想像”を作っていて、その“理想像”に向かってこれからいろいろな施策をしていくための計画ですよ、これは村の。私の感じ方かもしれないけれど、ぼけてしまうかな、と。

### 【伊藤会長】

他の審議委員の皆さんからも意見を聞きたいと思いますが、いま、疑問形であると目標がぼやけてしまうのではないかと、というか、ここはやはり“目標”として掲げた方が良いのではないかと、ということでしたけれども、その辺りいかがですか？

冒険するのではなくてきちんとした“目標”みたいな文言にした方が良いのではないかと、ということですけども。

### 【 委員 】

私も最初見て「はあ？」と思ったのですけれども、内容を読んだら「そうか。良いな！」と思いました。

つまり、村民の皆さんが【多様性】があるということで、それぞれが考える、という投げかけなので、内容を読んだ後は良いと思ったのですけれども、パッと見た人がどう思うか、ということは疑問だと思いました。

### 【事務局 総務課企画係長 太田】

そういうご意見が出ることは、充分、我々も話をしている予想はしておりました。ただ、あえて我々はこのキャッチフレーズを選びました。

と、言うのは、先ほど説明をしましたが、10年先、特に“白馬”という地域は、どうなるのか正直分からない、というのが特に最近の状況です。

そうであるならば、“豊かさ”というのは、それもまさに【多様性】があると思うのですけれども、人々が考える“豊かさ”というものを、常に追求し続けていくという“姿勢”を示したい、ということで、あえて疑問形で終わるキャッチフレーズにさせていただいた、という経過がございます。

確かに、目標としてわかりにくい、という部分はあるとは思いますが、我々がこれを作った時の思いというのは、【多様性】にあふれた白馬村の中で住民がお互いに理解を深めながら、常に答えを追求する努力を怠らないことが、白馬の発展というものに繋がっていくのではないかと、ということでご

ざいます。

ですので、最初に申しあげましたけれど、そういうご意見が出るとは思っておりましたし、そのつもりで提案をしたのですけれども、我々の思いとしてはそういうことです。

ただ、委員の皆さんで議論をしていただいで考えていただければ、という風に思います。

### 【伊藤会長】

今の説明を受けて、いかがでしょう？

### 【 委員 】

『豊かさを求めて』という、NHKの討論番組みたいなイメージがあるのですけれども。

いま、非常に貴重なというか、考え方の骨子だったと思うのですけれども、基本的には10年後の白馬村のイメージというものがどういう風になるのか、という切り口もありますよね、その時に、はたしてこのタイトルで良いのか、という…。どこか少しイメージが持ちにくい。何かそういうものが具体的ににあるような気がする。

これをパッと重ねるから出てくるのであって、始めからわかっていたらそういう風に言ったのかもしれないですけど、そういう辺りのところが非常に、どうかな、と。

むしろ、この前、醍醐さんが言われた“変化に対応できる村”とか、そういう切り口も一方であっても良いのかな、と。結局そうしないと“豊かさ”だけを求めても“変化”に対応できなければ終わってしまうのでね。

この前も話に出たように、スキーがこうなるとは思わなかった、もっと発展するだろうと思っていた、けれどこうなってしまった。それは誰の責任でもないですし、インバウンドで良くはなりましたけれども、“変化”というものに対応する。

そういう意味では行政なんかが一番そういう情報力があるわけだから、そういう切り口も欲しいかな、というのが、いま聞いた段階での感想です。まとめなくてはならない段階でこれを言っているのかかわからないですけど。

ただ、言いたいことは、イメージとしてそれが具体的に10年後と言われた時に持てるのかどうかということと、その時にどういう風に“変化”しているのかかわからないので“変化”に対応できるということを一方で謳いあげていくと良いのではないかと、その方がイメージ的にとらえやすい、という気がしたので、あえて言わせていただきました。

### 【伊藤会長】

それでは、この基本理念のところ、内容も含めてですけれども、内容が良ければあとはタイトルだけの問題なのかとは思いますが、

時間もありませんので、内容まで含めて、おかしいと思う部分とか、付け加えた方が良い、あるいは削除した方が良いという部分が、無ければあとはタイトルの一点で、ここはまとめたいと思えますけれども、いかがでしょう。

### 【 委員 】

非常に巧くまとめてもらっていると思うのですが、これから後の10年という見方の中で、特に前からそういう風に言われていることが、“観光・白馬”・“世界の白馬”という風に言っている人が多いわけですが、それには他所の観光地と違った白馬というものがあるのだと思う。

その中で一番は、景観が他所と違って素晴らしいということが、第一に言えるのですが、景観だけに物を言わせるだけで良いものかどうか、と。

それと同時に、今の景観が最高で良いのか、あるいはこれからこの景観をどういう風に見ていったら良いのか、というものの見方があまりにも曖昧すぎる、という風に思っています。

どこの部落でも出来ないこの“白馬”というものを、もう少し、変な言い方をするとクセを出すというか、差別的な考えからしてそういうものであるか。

私もそうですけれども、流行ものにどうしても頼ってしまう。流行ものというのは、人間が樂をする方に向かってしまうというのがあるのですが、“世界の白馬”と言うからには、誇りを守っていくのだ、という意識をしっかりと見せていかないと、どこでも同じことが出来るような時代になっていくのではないか、という風に思っています。

是非この“世界の白馬”というものを守りながら、そこに人間が携わっていくという、「今日すれば明日金になる」という考えではなく、クセを出していくことが大事なような気がしています。

世界の観光地などでもいくつか、そういう風に“そこだけでしか出来ない”という見方が多いですから、是非そういう風にしてもらいたい。

そして、皆さんが気付いているか意見を聞いたかったのが、いまだかつて白馬は、前の計画でもそうでしたが、確かに豊かな自然と田園風景があるということなのですけれども、まずこの“世界の白馬”というイメージを、アツと思うようなものが出せるような方向に、まず村民全体がそういう一つの方向に向かわなくては無理ではないかな、と思うわけです。

その辺りが、【学び合う】ということも良いのですけれども、非常に大事なことだと思うのですが、何かそういうものが少しでも入れていただけないか、と思います。

### 【伊藤会長】

と、いう意見でしたけれども、いかがでしょうか。どこか入れていただく余地はありますか？

### 【事務局 総務課企画係 太田】

まず、景観を保全し、将来にわたって差別化をされた自然地域、村長は“山岳リゾート”という言い方をしておりましたけれども、この部分につきましては、10年後に白馬村が他の地域と比べて差別化されたリゾート地に、多くのお客様に来ていただけるような土地に、当然村民だけではなくお客様も白馬の景観を守りながら共に造り上げていく、という思いはございます。その部分については基本理念の一番最後の部分に、思いを込めさせていただいたところでございます。

白馬村に住む人・白馬村を訪れる人が共に、この素晴らしい自然環境やお互いの文化・価値観を持って、尊重して、他に例のない美しい自然と多様な文化にあふれた村を造り上げていく、と。

こちらの方は前回“山岳リゾート”というような俗な書き方をしてしまったものですから、こちらの方は理念的な書き方をさせていただいたのですけれども、将来そういった白馬村を造っていくという、そういう思いをここに込めさせていただいたつもりです。

そして、村民が一体となって白馬の将来に向かって進んでいかなければならない、進んでいく、というように、そういったような思いを込められないか、ということですが、これにつきましては、トップの【多様性から学ぶ】という部分に、我々はその思いを込めさせていただいているところです。

【多様性から学ぶ】ということは、今いろいろな方、外国人・移住者の方・在来の方と、そういったいろいろな方が白馬にお住まいですけれども、そういう方々のことをよく知らない、というところが白馬にはあると思うので、お互いのことを知って、そしてお互いに学び合って、尊重することによって、一つにまとまっていこう、という、そういった思いを込めさせていただいております。

言葉といたしましては少しわかりにくいという部分はあるかとは思いますが、資料1・15ページ4行目ですが、「このように住民が一緒になって、より良い豊かな暮らしを本村で実現していく」といった形で、一体となって、皆さんが一緒になって進んでいく、という思いは、この理念の方には書かせていただいたつもりであります。

### 【伊藤会長】

基本理念の方には大まかに出ているということですが、このあと、まだ委員の皆さんからの要望ですとか意見というのは、これからさらに作られることになると思います基本計画ですとか実施計画の中には、もう少し細かく盛り込まれていくのではないかと思いますので、よろしく願いいたします。

それでは、基本理念について、この場でいくらか少し修正を加えるのかということに、結論を出していただきたいと思っておりますけれども。

### 【 委員 】

いま委員の意見を聞いて、すごく良いと思うのですが、白馬村は多様性があり世界の流れに対応していかなければならない、それが一つある。けれど「白馬村はこうなんだ！」という、「ブレないものがあるんだ！」という様な少し強い言い回しというか、「これが私たち、白馬村なんだ！」「これはブレないで昔から、これからもずっとそうなんだ！」みたいな要素が、（現状は）すごく良くて優しいけれど、強さみたいなものを感じる文章が無いのかという風に、そういうことなのかな、という風に思ったのですけれども。

なんとなく、そういうのがあれば「ああ、良いね」と思いうすいのかな、と思ったのですけれども。

太田係長の気持ちはすごく分かるし同じなのですが、一方でやはりそこも持っていないと、と。すごく高度な要求ですが、と。

### 【 委員 】

10年後どうなるかわからないから、という前提で始まるのではなくて、どうなるかは誰もわからないですよ、明日だってわかる人はいないです。

でも、計画を立てる時はある程度基本的に…、目指すものがなくてこれだと対処療法的にその場その場でやっていけば良いじゃないか、という、その場その場で豊かであれば良いじゃないか、というような考え方になっているのではないかと。それなら『10年計画』なんかいらぬのではないかと。『毎年計画』でやっていけば良い、となってしまう。

そうではなくて、『10年計画』で盛るのはもっと理想的なもの。実現できるかどうかは、全てが実

現出来るかは修正していかなくてはいけない、検討もあるし、いろいろ変わるかもしれないけれども、10年後白馬村はこうなっていてほしい、こうしたい、だからその過程の中でこうしていきますよ、というものが無いと、これは計画にはならないのではないかと。

**【 委員 】**

すごく難しいけれど、「すごくしなやかに、変化に対応しますよ。でも一方で全然変わらないんですよ」という…。

**【 委員 】**

芯が無くて…違和感があるというのはそういう意味なんですよ。

このまま、そのまま受け取ると、その場その場で、変化に対応することばかりを考えていて、どちらかという、求めていくものがわからない、という。

おそらく求めていくものは、最後に書いてある、10年後にみんなが満足して「ああ、良かった」、ということが、おそらく目標なのではと思うのですけれども。

**【伊藤会長】**

それは、内容についてではなく、タイトルについてですか？

**【 委員 】**

タイトルも含めてです。内容も含めて。

**【伊藤会長】**

内容まで変えなくてはいけない、と。

**【 委員 】**

内容は良いとは思いますが。ただ、タイトルと連動させなくてはいけないから。結局ここに究極の目標があるのなら、これが何か、表にも出てこない。

今回の10年計画で村が考えている。キャッチフレーズというのは、キャッチコピーではなくて「村がどういう方向に進みます」「これから村はこういう風にやっています」という一つのアピールなわけだから、それがパッと見た目に村民の人が「なんじゃこりゃ」と思ってしまったら、村の人達は「村はこれから何をやる気なんだろう？」とってしまう気がする。

それよりももっと「10年後、こういう村を目指している、やります！」ということが何か表現されている、パッと見て「こういう村を目指していくんだ」ということがわかるようなタイトルであった方が良い気がします。

**【伊藤会長】**

それについて何かあれば。

**【 委員 】**

要は、村民が夢を見られるような、そういう言葉が欲しいのだと思うんですね。

たぶんその夢がバーンと打ち出されると、村民が「わぁ！10年後、こうなるのかもしれない！」というワクワク感が持てるような、そういうのが…。それが実現出来るかどうかは別として、でもそれを打ち出すことによって、それで村民が夢を見られることを目指しているのではないかな、と思うのですけれども。

**【伊藤会長】**

そんな感じのキャッチフレーズの方が良い、という意見ですけれども、皆さんどうですか。

**【 委員 】**

しかし、具体的な対案を出さないと。今日は時間が無いわけでしょう？

**【伊藤会長】**

大体の方向性はいま…。これで今日にはパブリックコメントにあげるの、なんとかここだけは早く…。

**【 委員 】**

私が今朝、これが郵送されてきて、ここのタイトルを見て、これがタイトルになるのかな、という気はしたんですよ。

ただ、「白馬の豊かさとは何か？」と問いかけて、下の方が答えですよね。上と下とセットで理念ということになっている。

前文の書き方がそうになっていますよね。『この「多様性」から「学びあう」ことによって、様々な分野で「白馬の豊かさ」を発見できるはずです。』と書いてあるわけです。

だから、ちょっとユニークと言えばユニークなタイトルだけど、これで最終段落のところと併せて読めば、わからなくもないのではないかと私は思いました。

**【伊藤会長】**

先ほどから、中身を読めば納得できることもある、という意見もありましたけれども…。

**【 委員 】**

ただ、そこで、本文とジョイントさせて言うと、「共通の理念」とありますが、「白馬村の豊かさとは何か」、これだけでは理念にはならないのでは。

私が思うに、「多様性から～」と併せてこれ（理念）だと思うので、ここで「白馬村の豊かさとは何か」だけを理念、と言ってしまうと具合が悪いのではないかとと思う。

“理念”という言葉、テーマとか思いとか、そういう表現に変えた方が良いのではないかと思いました。

**【伊藤会長】**

どうですか、その辺りは。

**【(株) studio-L 醍醐】**

疑問形のタイトルは、他の自治体では無いと思います。だから良いというわけではないのですが、今回“理念”のところを何を訴えかけるのか、と、いろいろな議論をしてきた中で、こういう形が良いのではないかと。

いま皆さんからご意見をいただいた、ワクワク感や、どこに向かっていくのか、という、そこはおっしゃる通りだと思いましたので、どう微修正するのかということも含めて、いろいろな議論が出来ないかな、と思ったのですが、一つ、前回の時にお話させていただいた 暉峻 淑子さんの『豊かさとは何か』という本が1991年に上梓されているのですが、この考え方が25年前に日本で初めて本として訴えかけられたということで、衝撃的であったということなのですが、これが白馬村に照らし合わせると、ちょうどこの25年間、大きな波がありながら学んできた村だと思うのです。だからこそ、この【学び】ということを中心に、この10年間学び合っていこうよ、と。そこから、これからの時代、情勢がどうなるかわからない、変わっていく、という中で、【学び合い】の中からもいろいろな課題を解決していったり、ワクワクすることを生み出していったり、そういった村にもっていきましょう、というような理念ですので、そこは大事にしたいと思っています。

そこは間違いなく、このヒヤリング・インタビュー・キャンプの中で、白馬の多くの皆さんとお話させていただいて確信を持てる場所だと思っていますので、あとは皆さんが腑に落ちる形での、ワクワク感であるとか、目標設定として本当にこの言葉で良いのか、というようにところをどうしていくか、というところは時間が限られている中ですが、知恵を出していかなくてはいけないな、と思っています。

**【伊藤会長】**

それについて、どうでしょうか。

**【 委員 】**

何かちょっと足りない気がしています、皆さん、よく考えられているとは思いますが。

【多様性から学び合う村へ】というのは良いのだけれども、これはどうあっても、これから、多様性の中から、学びながら、進めていかなくてはいけないことは事実なのだ、と。

その方向性というのは、白馬の豊かさと、もう一つ何か…何かあるのではないかと考えているのだけれども。

**【伊藤会長】**

先ほどおっしゃられていた、もう一クセ、ということですか。

**【 委員 】**

非常に難しいところだけれど、よくまとめられたと思いますよ。けれど、もうちょっと何かないかな、

と。

**【伊藤会長】**

他の皆さん、何か良いアイデア・言葉・ワード、ありますか？

**【 委員 】**

そうですね…。我々この審議委員会の中でいろいろ議論をしているので、どんな文章を出されても、よく考えていただいているので、何を文章で出されても、みんな腑に落ちるといえるか、そうだね、とわかると思います。

ただ、村民の場合、そこまで深く、この文章を全部理解して、キャッチフレーズなり目標なりを設定されたとしても、村民はたぶん一行目の一篇通りの意味しか読まないし、その中でしかイメージしないと思います。

だから、先ほど言われたように、抽象的な言葉だと全然ワクワク感が無いから、もう少し具体的なところをバーンと出して、村民の夢を…誰かが夢を語ってくれなくてははいけませんよね。

だから、その夢を語ってくれるコピーじゃないといけないかな、と思うのです。

例えば、個人的に思うには、建設業に携わっているのですが、エネルギー政策というのは国の重大なテーマでありますし、その中で東日本大震災があってから電力の問題や海外から石油を買っている中で、村も水力発電などに取り組んでいますけれども、そこで自給自足の自家発電というところを考えると、「自給自足の村を造ります」とか、そういうことがあっても良いのではないかと思います。具体的に言うと、そんなことは思います。

**【伊藤会長】**

何かそんな、イメージが出来るようなこと・言葉、端的に表せる言葉、ありますでしょうか。

**【(株) studio-L 小山】**

いま、ここで繋げようとしていて…いろいろありましたよ、何十個と…。

追求というか、何かに変わる部分というと、“追求”だったり、“問い続ける”だったり、そういうのはあるのですが、話していたのは、疑問形というのが、イメージが出来ないとか、よし悪しはあると思うのですが、そういうデメリットを補完するではないですが、より問い続けてもらった方が白馬の場合は良いのではないかと、思ったので、疑問形にしたのです。

ただ、今おっしゃったように、一篇通りで判断をしてもらおうと、またそれはそれで…、という話になるので、それをふまえて、私と弊社 醍醐もそうで、二人で考えているのですが、やはり“豊かさの追求”となると、若干わかりやすくはなるのですが、凡庸になるというか…。

**【伊藤会長】**

時間のこともあるので、少し考えていただいて、あとでもう一度聞きたいと思いますので。何か提示していただきたいと思いますので、お願いします。

一旦、基本目標の方に移りまして、そこの中で各分野の方がいると思いますが、気になること、ある

いは修正した方が良い部分、かなり皆さんの意見をふまえて伝えてありますので、そう多く、大きく変わるところは無いとは思いますが、文言的なところでも良いですし、ありましたらここを出していただければと思います。

### 【 委員 】

毎回こだわるようなのですけれども、「新しい仕事をつくりだす村」のところの最後のところに、「新たな担い手の確保や、生産効率の高い農地を確保するほ場整備事業などのさらなる拡充が求められるほか、小規模兼業農家への継続した支援や、遊休農地を村内外の利用希望者に紹介するなど、農地の活用を目的とした新たな取り組みも必要となっています。」となっております。

前は自然のところに入っていました、こちらに移していただいたのは良かったと思うのですが、「ほ場整備」という文言をあえて何回も入れているのですけれども、入れてほしくないな、というのが一つ、あります。

と言うのは、先ほどの住民キャンプやインタビューの中で、「こういうことをしてほしいな」という声が一言もないのです。「遊休農地を活用してください」というのはあります。でも、「農地を集約して大規模農業にしていって方が良いです」なんていう意見はほとんどないです。

そういう中で、こういったものは行政的な考え方の中で生まれている内容ではないか、と。こうすれば生産効率が上がるから担い手も増えるのではないか、と。今のほ場整備の名称が、「担い手育成型基盤整備事業」というのが国の事業名ですから、まさにそうなのですけれど。

でもその一方で、認定農業法人の受け入れもいっぱいになっています、というのがどこかに書いてあったかと思うのですけれども、そういう中でこういうことをやって、じゃあ担い手してくれるのか、という話になったときに、そういうこともわからないのにこういうものが、基本的な施策の中でこういうものが段々と検討されるのは良いと思うのですけれども、基本目標の中で具体的な事業名を出すというのは、あまり好ましくない、と。

これは、計画を組む中でいろいろな方法を探る、一つの方法として、捉えられるべきなのではないか、という風に思います。

### 【伊藤会長】

そういう意見がありました、今日、農業の関係でいらっしゃるの、農協の関係の委員が一名しかいらっしゃいませんけれども。

### 【 委員 】

文面の中であった「ほ場整備の事業など」というのは、行政の関係でいろいろあるかと思いますが、国の施策がTPPも含めて“攻めの農業”とか、そういったことで農地の集積といったことがでているので、「ほ場整備事業」という言葉が使われているのですけれども、この言葉を使うのが適切なのかどうか、私も疑問があるのですが、他に替わるような文言が考えても出てこなくて、何か事務局の方でこれに替わるようなものがあれば…。

### 【事務局 総務課企画係長 太田】

それでしたら、一つのご提案なのですけれども、「ほ場整備事業等」という部分を削除して、前段の「生産効率の高い農地の確保」という部分だけを活かして残していく、という形でどうでしょうか。

**【 委員 】**

その感じで良いと思います。

**【伊藤会長】**

他の委員さんもそれで良いでしょうか。では、その様にいたします。

他の部分で何か気になることはありますでしょうか。もし気が付いたことがあれば、会議の後でもまた直接…。字の間違いでも良いですし、あればまた指摘していただければと思います。

では、基本的にはこれをパブリックコメントにかけるということで、よろしいですか。

**【 委員 】**

一番後ろの『総合計画の推進』、ここで素案には無かったのが「PDCA サイクル仕組みの構築などを行い、」これが挿入されたのですが、「PDCA サイクルとは何か知っているか」と聞いてみたら、ほとんどの人が、知らない、と。

素案ではこの部分が無かったわけですから、これは無くても良いのではないかと。入れるとしたら、このペーパーではスペースが無いかとは思いますが、PDCA サイクルとは何か」ということを村民に説明した方が良いと思います。私自身も職場ではやったことが無いですし。

それが一つと、これでもうパブリックコメントにかけるということでしたら、(資料9ページの)「合計特殊出生率」の表のタイトルが上の別の表と同じになってしまっているので変えなくてはいけないのと、(次のページの)「外国人登録者数の推移」とあるのですが、これはちょっと違うのではないかと。2004年から2011年までのところは、オリジナルのデータにはこの部分は入っていなかったと思うのですが。「2012年の4月に法改正があつて～」と元の資料にはそう書いてありましたよね。それと2012年と2013年、これは年末年始をとっちゃうと人数が増えるから、ということでしたら、数字を拾ってくるところを、例えば7月や8月など、統一したら良いという風に思いました。

**【事務局 総務課企画係長 太田】**

まずPDCAサイクルの関係ですが、こちらは前回の審議会の中で、基本目標の方にPDCAサイクルを入れさせていただいて、これは計画全体に掛かるようにした方が良いでしょう、ということで、(今回から)こちらに載せさせていただいたので、このままいきたいと思います。

いまご意見をいただきましたので「PDCA サイクルとは」という部分を、注意書きと言いますか、書き込みをしたいと思います。

表の関係につきましては、まず表題が間違っている部分は修正をいたします。「外国人登録者数の推移」ですが、旧法の外国人登録数と、法改正がありまして住民基本台帳法となったのですが、その各年の3月の数字を住民課にあります表から算出したものでございます。一応、3月末の人数ということで注記を入れたいと思います。

**【 委員 】**

2012年と2013年は、3月末の数字では無いのではないですか。

**【事務局 総務課企画係長 太田】**

いただいた表で確認をしたのですが、再度確認をします。

**【伊藤会長】**

他に何か指摘事項はありますか。もう一度、他に時の間違いですとか、チェックをお願いします。では戻りまして、先ほどの基本理念のところに戻したいと思いますので、よろしくお願いします。何か…出ましたでしょうか、短い時間ですみませんが。

**【(株) studio-L 醍醐】**

いまの時間の中で、いただいた意見の中で、まず修正できるかな、と、現在いる二人での意見で申し訳ないのですが、話したのは、「白馬の豊かさを問い続ける」みたいな、何か丸投げ感があるかなあ、という話もあったので、みんなで問い続けましょうよ、考え続けましょうよ、というニュアンスを入れた方が良いのでは、というのと、「多様であることから学び合う村」、「(学び合う村)へ」は取っても良いかな、と思いました。

あともう一つ大事な“ワクワク感”であるとか、そこは、すみません、この時間の中では思いつきませんでした。ただ、我々が大事にしているのは、この総合計画のお手伝いをさせていただく中で、全国各地の総合計画を見ました、勉強しましたけれども、だいたいキャッチコピー、理念というのは、その自治体名を変えればどこにでも当てはまるじゃないか、というようなものが、全国各地ほとんどなのです。それは、ある種ありきたりな「実り豊かな」「潤いある」「自然豊かな」「元気で」「健やかな」みたいな。そうはしたくないな、と思ったので、白馬だからこそ、これからの10年の白馬だからこそ、何を最初に出すのか、というところを大事にしたいな、と思いましたから、教科書的な響きのあるキャッチコピーになってしまいますけれども、今回はメッセージ性を出すということも含めて、このあたりが良いのではないかと、いう風に思っております。

**【伊藤会長】**

タイトルが【白馬の豊かさを問い続ける】で、サブタイトルが【多様であることから学び合う村】と。いま短い時間で申し訳なかったのですけれども、修正というか、文言を変えていただきましたけれども、そんなことでどうでしょうか、ということですが。

**【 委員 】**

端的に言うと、「白馬の豊かさとは何か」ではなくて、「白馬の豊かさを求めて」も良いのではないかと。その中から多様性を学び、それには多様性を学んでいく村、とした方が。

**【 委員 】**

「求めて」でも良いですね。

**【伊藤会長】**

確信というか、確定的な、というか。

**【 委員 】**

“ワクワク感”がちょっと…、というのはあるのですけれども、より“豊かな”というところをイメージしてもらうような文章を下に付けたら、それもセットでしかないのですけれども、補完は出来るかな、と。

**【 委員 】**

“ワクワク感”が一番最後の文章、この最後の文章で作れば良いと思います。これが目標ではないけれども、結果的にこういうような村になりたい、というのがあるから、“ワクワク感”はそこで良いと思います。

キャッチーなところは、ある程度わかりやすい方が良いのでは、と思う。

**【伊藤会長】**

いま委員から出た「白馬の豊かさを求めて」みたいな書き方ではどうか、ということですがけれども。

**【 委員 】**

これ…現状、どういう風にしてというか、もちろん10年後というか将来・未来に、「豊かさとは何か」とか「求めて」も良いのですけれども、ただ現状というのが、白馬って財政的にも豊かなのか、個人的にも豊かなのか、という捉え方をされると、何を言っているの？という意見が出てくれば、例えば、税金なんかを滞納しているというのがある中で、どうなのかな、と。そういう思いを持ったのですけれども。

**【(株) studio-L 醍醐】**

人によって捉え方が、“豊かさ”の場合はおそらく千差万別であると思いますので、物質的・金銭的豊かさだけを捉えてしまうと、キャッチコピーの時点で「ん？」と思ってしまうところもあると思うのですけれども、より多様な豊かさというか、精神的な豊かさであるとか、ここで書いている、お互いが関係しあったり、交流しあったり、学び合ったり、というところの中で、精神的な部分を含めた豊かさを捉えていく、考えていく、と。

みんなで「白馬のしあわせって、本当は何なの？」「これからどうなの？」ということ常々みんな議論をしながら、考えながら、「じゃあ、どんな活動をしていけば良いの？」かとか、まさに官民協同の計画であることは間違いないので、民の取り組みをどうしていくのか、という、根本的にはそのところを問うた上で、どんな活動が必要か、という話になってくるので、精神的な豊かさを含めた“豊かさ”を捉えていきましょう、考えていきましょう、ということ、訴えかけられたらな、と思っております。

## 【 委員 】

そういう面で言うと、「～何か」というのは、そういう意味でしょ、と。だからこれが「求めて」にしてしまうと、金銭的な豊かさのイメージが、「また豊かだったあの頃の白馬に戻りましょう！」みたいなキャッチコピーか、と見られるという可能性が、確かにあるし。そういう夢を一度見ているから、だからまた戻るつもりなのか、という風に逆に取られてしまう、という危険性がある。

だから、そういう面では、白馬らしい豊かさを問い続けましょう、という意味なのですよ？それはすごく良いことだと思います。問い続けながら最終的には“本当の豊かさ”というものを実現しましょう、と。そういう意味では、良いのかな、と。

問い続ける、とか、〇〇し続けていく、というのを目標ではなく理念で。目標は「白馬らしい豊かさを実現する」。問い続けるだけではダメで、最終的に10年後、白馬らしい豊かさをみんなが感じられる村にする、というのが目標ですよ。

そのために、どうあるか。どういう“豊かさ”が本当の豊かさなのか、ということ、今後10年ずっとやり続けていく。そして最終的に出来上がったものが“白馬らしい豊かさ”なんだ、ということですよ。

## 【(株) studio-L 醍醐】

で、あると、やはり「求めて」よりかは「問い続ける」の方が良い、と思いました。

## 【伊藤会長】

では、そろそろ結論を…。多数決というのも…。何か婦人会の皆さん、どうですか。

## 【 委員 】

「問い続ける」の方の意見なのですが、本当にちょっとしたことなのですが、「問い続ける白馬」みたいな感じで、語順を入れ替えたらどうですか。「豊かさを問い続ける白馬」と。

## 【伊藤会長】

語順を替えたらどうか、というご意見がありました。感じもまた変わってくる気もしますが。

## 【 委員 】

私は、大反対が無ければ、作った人の思いをそこに込めたら良いのではないかと、思います。「絶対反対！」というのがなくて、でも一応は皆さんが意見を言って、頭に入れた中で、思いが共有できていると思うので、それを載せたら良いのではないかな、と、思います。言葉の好き嫌いになってしまいますし。

## 【伊藤会長】

最初のタイトル「白馬の豊かさとは何か」という最初の原案ですが、それが、すごく嫌だな、とか、これはちょっと…、という方はいますでしょうか。

逆に、少し文言を、本質は変わらないにしても少し文言が変わってはいますけれども、いくつか出ま

したけれども…。難しいですね…。

それぞれの感じは、解るし良いな、と思うのですけれども、どれかに決めなくてははいけませんので。全員の委員さんがいないところで多数決というのも…、多少異論は残しつつもどこかに落とさなくてはいけないと思いますので、お願いいたします。

### 【 委員 】

一応、そういう意見があったということで、また庁内とかメールでとか…するしかないのでは、と。我々はこういう意見を持ちました、おそらく村民の方もそういうことを思うのではないかと、という一つの意見を出したので、それに対して、やっぱりこれで行こう！というのであれば、それなりに説明をすべきだし、じゃあもう少し言い方を変えて理念を表現します、と…。だから、理念の表現の仕方だけですよ。考え方は良いと思いますので。それに対して、たぶん、ほとんど異論は無かったと思うので。問題は理念に対してどういう表現をするのか、と。

### 【伊藤会長】

どうでしょう。いくつか案が出ました。それをもう少し委員さんに検討していただいて、どこかに落ち着くとは思いますが、いま中身も含めて、皆さん、理念や考え方は分かるかと思しますので、もしいろいろな人から審議委員として聞かれた場合は、こういう内容で、とご説明をしていただきたいと思えます。

### 【事務局 総務課企画係長 太田】

いろいろとご意見いただきありがとうございます。いま、こちらの方で作成した思いを通して良いのではないかと、という有難いご意見もいただいたのですが、事務局といたしまして、いろいろなご意見をいただいた中で、一つの、我々の思いとしては、やはり「白馬の豊かさを問い続けていく」というのが、我々の思いでありますし、それはご理解いただけた、という風に私は考えております。

ですので、この基本理念のキャッチフレーズについて、「白馬の豊かさとは何か」「多様であることから学び合う村」という様なご意見をいただきまして、これは非常によろしいのではないかと思いますので、サブタイトルの方はその様な形に変えさせていただきます。

その下の、タイトルの理由について書かせていただいたのですが、最後の「目指していく」という部分で、この基本理念の一番最後のところに「住んで良かった」という、豊かな白馬村を実現する、という最終的な目標があるのですけれども、その部分をこの文章の中に書き込ませていただいて、そういったキャッチフレーズを補完していく、と。

あとは理念の方も、その部分で説明をさせていただいて、事あるごとに皆様に説明をしていく、といったような形で、進めさせていただければという風に考えております。

ですので、「白馬の豊かさとは何か」「多様であることから学び合う村」と（選んだ）その理由を、もう少し肉付けをして決定させていただければ有難い、という風に考えております。

### 【伊藤会長】

事務局から、一部文言が入るところがありましたけれども、やはりこれで行きたい、ということす

ので、いかがでしょう。なかなか他には無いということで、ユニークとは思いますがけれども。

これで行く、ということで、これで決定ということでよろしいでしょうか。

### 【 委員 】

私は、補完する文章を読まないで、タイトルだけで解らせる、村民全部に解らせるというタイトルなんか出来ないと思います、無いと思います。

それだったらすごく長いタイトルになってしまうと思います。そうするとまたそれは問題があるので、この間言ったことの蒸し返しになるので、やはりこの補完の文章あつてのこのタイトルだ、と。

そりゃあ、全部解った方が良いと思いますけど、ここの、この補完の文章を読むまで行かない人に、これを全部、タイトルだけで解らせるのは無理だと思うから、最初から無理だと思って、この補完の文章あつてのタイトル、という風に考えても良いのではないかな、と思います。

### 【伊藤会長】

それでは、そういうことで、とりあえずこれで行く、ということで、よろしく願いいたします。

## (2) 基本構想に関する意見公募について

### 【事務局 総務課企画係長 太田】

活発なご議論、ありがとうございました。様々なご意見を出していただきまして、非常に、参考にさせていただきたいと思います。ありがとうございました。

この段階で、基本構想・基本理念等を決定していただいたということでございまして、これでパブリックコメントの受付を開始したいと思います。

パブリックコメントにつきましては、これで若干文章の方を、最終的な見直し・校正等をかけまして、早ければ今日の夜から始めたいと思います。3月13日(日)まで実施したいと思います。

その他のところにも書いてございますが、3月15日(火)午後2時から、年度内最終の第9回計画審議会をこの場所で開催したいと思います。

そちらの方で、パブリックコメントの内容の発表と、それに伴う修正等ございましたら発表させていただきまして、その内容で各委員皆さんのご確認をいただいた上で答申、という流れにさせていただきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

### 【伊藤会長】

なかなか時間が、急かしたような議論になってしまって申し訳ありませんでした。

これをもって今日の審議を終わりたいと思います。ありがとうございました。

## 4. 閉 会

### 【事務局 総務課企画係長 太田】

閉会を宣言した。